ひっぱる

旭川野外彫刻マップ たんさく

旭川彫刻サポート隊
2021年版

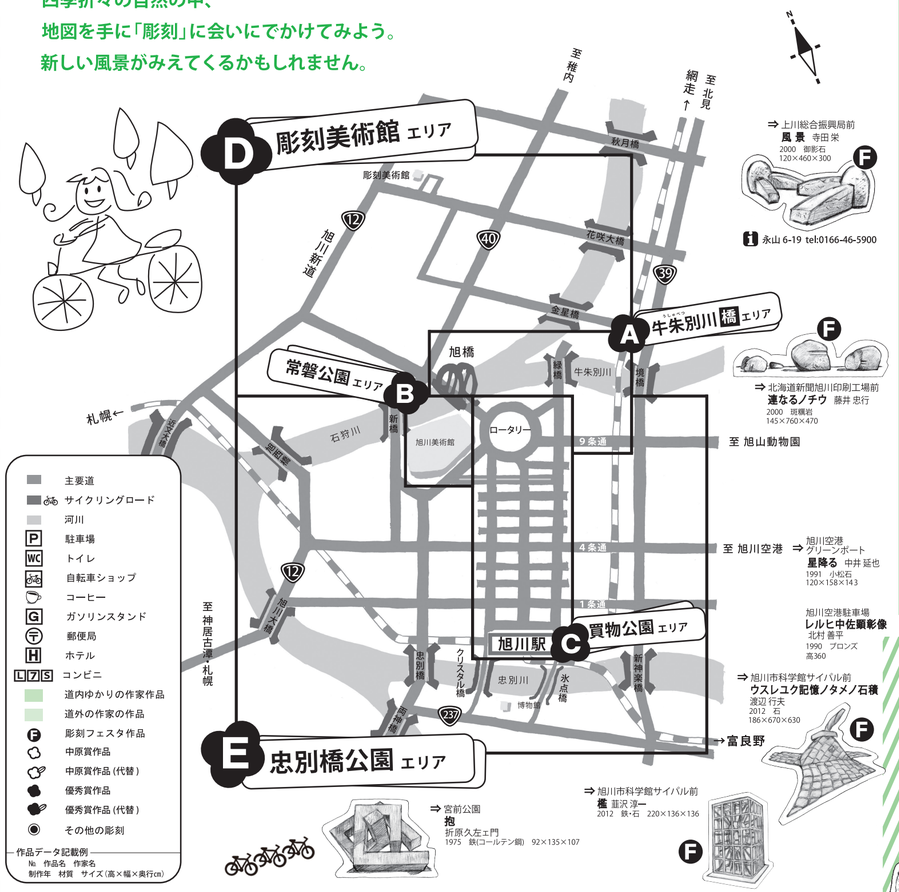
歩いて観よう！

旭川は“彫刻のまち”と呼ばれ、
街中や公園に約100基の野外彫刻があります。
四季折々の自然の中、
地図を手に「彫刻」に会いにでかけてみよう。
新しい風景がみえてくるかもしれません。

見つけた彫刻をチェックしよう。

どうしてたくさんあるの

旭川が“彫刻のまち”となった原点には彫刻家・**中原悌二郎★**（なかはらていじろう）の存在があります。悌二郎はロダンの影響のもと優れた作品を制作し、32歳の若さで亡くなりましたが、その作品は日本の近代彫刻史において重要な位置を占めています。1962年、**加藤顕清**らの尽力によって悌二郎の作品が帰郷を果たしたことから、旭川は“彫刻のまち”としての歩みをはじめ、1970年には**中原悌二郎賞★**を創設して優れた作品の収集につとめます。1972年、日本初の歩行者天国として注目を集めた**買物公園**に彫刻を設置し、その後も公園、広場、橋など身近な都市空間の中で彫刻に親しめる街づくりを進めたことから「行政が彫刻と積極的にかかわる先駆的な役割を果たしているまち」という認識が全国に広がりました。1994年には**旭川市彫刻美術館**が開館し、2000年にスタートした**彫刻フェスタ★**では公開参加型制作によって、作家と市民が直接出会う新たな場を創造しています。こうした長年の活動が実を結び、現在では**彫刻美術館、道立旭川美術館、北海道療育園**など市内各所で彫刻を見ることができる“彫刻のまち”となりました。2002年には野外彫刻の清掃活動を行うボランティア組織・**旭川彫刻サポート隊★**が発足し、彫刻ファンド市民の会など市民の自発的な彫刻との関わりが広がり、私たちの暮らしの中に彫刻が溶け込んでいます。このマップの制作もその一つです。



B 常磐公園 エリア

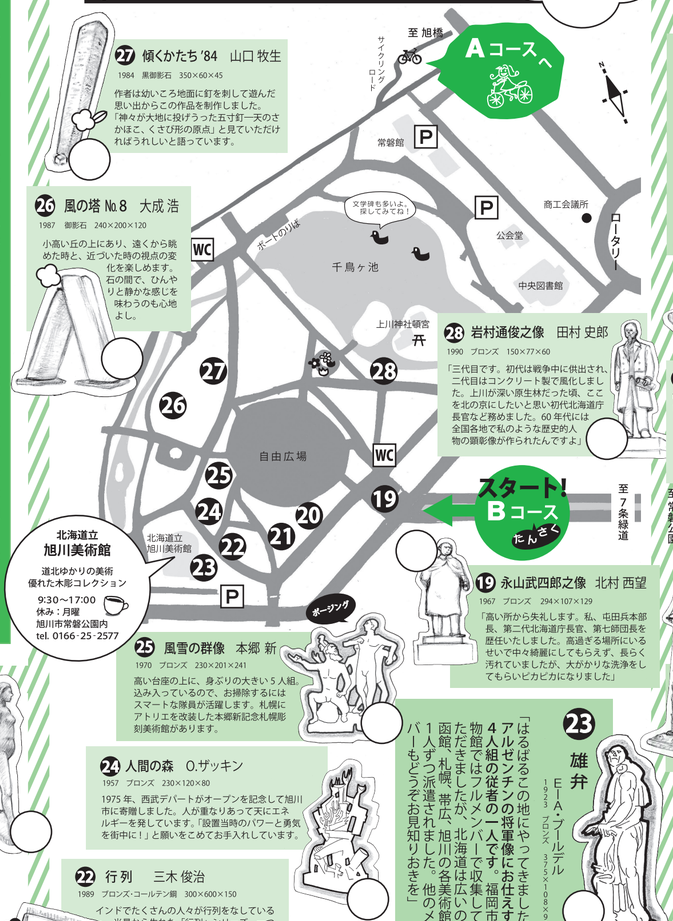
旭川美術館、中央図書館、旭川文学資料館などがあり、広場を中心に10基の彫刻が配置されています。
春は桜、夏はボート、秋は紅葉、冬はダイヤモンドダストと四季の変化の中で眺める彫刻は、まるで映画のワンシーン。隣接する「石狩川と旭橋」の景観は北海道遺産に指定され、河川敷は花火大会や冬まつりで賑わいます。
川沿いのサイクリングロードにも足をのばしてみてはいかが。

たんさく モデルコース

旭川駅→常磐公園（徒歩：約20分、自転車：約15分）

7条緑道 → 常磐公園入口 → 常磐公園一周 → 旭橋下サイクリングロード → 緑橋（Aコースへ）

距離：約1.1㎞
徒歩：約50分
自転車：約35分



27 傾くかたち'84 山口 牧生
1984 黒御影石 350×60×45
作者は幼いころ地面に釘を刺して遊んだ思い出からこの作品を制作しました。「神々が大地に投げうった五寸釘一天のさかほこ、くさび形の原点」と見ていただければうれしいと語っています。

26 風の塔 №8 大成 浩
1987 御影石 240×200×120
小高い丘の上にあり、遠くから眺めた時と、近づいた時の視点の変化を楽しめます。石の間で、ひんやりと静かな感じを味わうのも心地よし。

28 岩村通俊之像 田村 史郎
1990 ブロンズ 150×77×60
「三代目です。初代は戦争中に供出され、二代目はコンクリート製で風化しました。上川が深い原生林だった頃、ここを北の京にしたいと思い初代北海道庁長官など務めました。60年代には全国各地で私のような歴史的人物の顕彰像が作られたんですよ」

19 永山武四郎之像 北村 西望
1967 ブロンズ 294×107×129
「高い所から失礼します。私、屯田兵本部長、第二代北海道庁長官、第七師団長を歴任いたしました。高過ぎる場所にいるせいで中々綺麗にしてもらえず、長らく汚れていましたが、大がかりな洗浄をしてもらいピカピカになりました」

25 風雪の群像 本郷 新
1970 ブロンズ 230×201×241
高い台座の上に、身ぶりの大きい5人組。込み入っているので、お掃除するにはスマートな隊員が活躍します。札幌にアトリエを改装した本郷新記念札幌彫刻美術館があります。

24 人間の森 O.ザッキン
1957 ブロンズ 230×120×80
1975年、西武デパートがオープンを記念して旭川市に寄贈しました。人が重なりあって天にエネルギーを発しています。「設置当時のパワーと勇気を街中に！」と願いをこめてお手入れしています。

22 行列 三木 俊治
1989 ブロンズ・コールテン鋼 300×600×150
インドでたくさんの人々が行列をなしている光景から生れた「行列」シリーズ。一つの地球の様々な場所の人たちがそれぞれの今を生きている。フラットで広い面積をむらなく掃除すると緊張感が見渡えるため翌日の筋肉痛も恐れず挑みます。

23 雄弁 E.I.A.・プールデル
1973 ブロンズ 175×108×98
「はるばるこの地にやってきました。アルゼンチンの将軍像にお仕えする4人組の従者の一人です。福岡市博物館ではフルメンバーで収集していただきましたが、北海道は広いので函館、札幌、帯広、旭川の各美術館に1人ずつ派遣されました。他のメンバーもどうぞお見知りおきを」

20 生きる 空 充秋
1989 青木石 435×300×130
石が自ら立ち上がっていくように力強く組み上げられています。作者は「人は宇宙の中で自然と関わり生きている。その変遷を石自体の力を誘うように螺旋状にせりとげた」と語っています。

21 地 空 充秋
1984 白御影石 150×250×120

C 買物公園 エリア

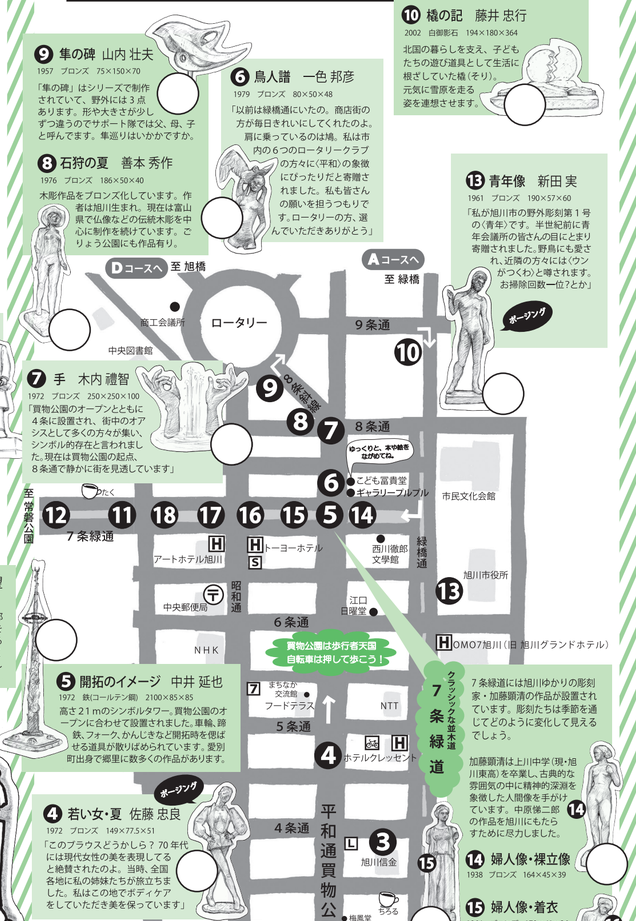
日本初の歩行者天国として1972年にオープンした旭川の中心商店街。当初より多くの彫刻が設置され市民に親しまれました。
人々の暮らしの中に彫刻を置いた先駆的な取り組みとして注目を集め“彫刻のまち”のイメージを全国に発信したエリアです。2002年のリニューアルにともない彫刻の再配置が行われ、現在の形になっています。

たんさく モデルコース

※時間にはすべて荷物時間が含まれています

旭川駅→買物公園→8条斜線通→9条通→緑橋通→市役所前→7条緑道→常磐公園（Bコースへ）

距離：約2.2㎞
徒歩：約1時間10分
自転車：押して歩いて約1時間10分



10 橇の記 藤井 忠行
2002 白御影石 194×180×364
北国の暮らしを支え、子どもたちの遊び道具として生活に根ざしていた橇（そり）。元気に雪原を走る姿を連想させます。

9 隼の碑 山内 壮夫
1957 ブロンズ 75×150×70
「隼の碑」はシリーズで制作されていて、野外には3点あります。形や大きさが少しずつ違うのでサポート隊では父、母、子と呼んでます。隼巡りはいかがですか。

6 鳥人譜 一色 邦彦
1979 ブロンズ 80×50×48
「以前は緑橋通にいたの。商店街の方が毎日きれいにしてくれたのよ。肩に乗っているのは鳩。私は市内の6つのロータリークラブの方々に（平和）の象徴にぴったりだと寄贈されました。私も皆さんの願いを担うつもりです。ロータリーの方、選んでいただきありがとう」

8 石狩の夏 善本 秀作
1976 ブロンズ 186×50×40
木彫作品をブロンズ化しています。作者は旭川生まれ。現在は富山県で仏像などの伝統木彫を中心に制作を続けています。こりょう公園にも作品有り。

13 青年像 新田 実
1961 ブロンズ 190×57×60
「私が旭川市の野外彫刻第1号の（青年）です。半世紀前に青年会議所の皆さんの目にとまり寄贈されました。野鳥にも愛され、近隣の方々には〈ウンがつくわ〉と呼ばれます。お掃除回数一位？とか」

7 手 木内 禮智
1972 ブロンズ 250×250×100
「買物公園のオープンとともに4条に設置され、街中のオアシスとして多くの方々が集い、シンボル的存在と言われました。現在は買物公園の起点、8条通で静かに街を見渡しています」

5 開拓のイメージ 中井 延也
1972 鉄(コールテン鋼) 2100×85×85
高さ21mのシンボルタワー。買物公園のオープンに合わせて設置されました。車輪、蹄鉄、フォーク、かんじきなど開拓時を偲ばせる道具が散りばめられています。愛別町出身で郷里に数多くの作品があります。

4 若い女・夏 佐藤 忠良
1972 ブロンズ 149×77.5×51
「このブラウスどうかしら？ 70年代には現代女性の美を表現してると絶賛されたのよ。当時、全国各地に私の姉妹たちが旅立ちました。私はこの地でボディケアをしていただき美を保っています」

2 サキソフォン吹きと猫 黒川 見彦
2001 ブロンズ 103×210×150
「僕は、ここでは新参者。買物公園リニューアルの時に来たからね。でも今は一番の人気者。みんな 僕と写真を撮ったり、猫をなでたりしてくれる。寒い冬にマフラーを巻いてくれる人も。ここにきて良かったな」

1 若い女 佐藤 忠良
1971 ブロンズ 174.5×103.5×58
「こんにちは。私、“彫刻のまち”の看板モデルです。テレビや写真で旭川が紹介される時は必ず私に出演依頼がきたのよ。買物公園のオープンを記念して北海道銀行から寄贈され、ずっと街を見守ってきたのよ」

3 希望 笹戸 千津子
1989 ブロンズ 高150
男子「僕たちは旭川信金創設70周年を記念して制作されました」女子「旭川信金では各支店に子どもたちの彫刻があります。探してみてね」

14 婦人像・裸立像
1938 ブロンズ 164×45×39

15 婦人像・着衣
1964 ブロンズ 170×41×36

16 男子座裸像
1965 ブロンズ 100×80×69

17 思惟像
1961 ブロンズ 95×45×110

18 人間像・青年
1960 ブロンズ 170×37×41

11 人間
1951 ブロンズ 172×63.5×53

12 母子像
1963 ブロンズ 170×37×41

7条緑道には旭川ゆかりの彫刻家・加藤顕清の作品が設置されています。彫刻たちは季節を通じてどのように変化して見えるでしょう。
加藤顕清は上川中学（現・旭川東高）を卒業し、古典的な雰囲気の中に精神的深淵を象徴した人間像を手がけています。中原悌二郎の作品を旭川にもたらすために尽力しました。

●彫刻美術館ステーションギャラリー
JR旭川駅東口 10:30～18:30 観覧料無料
休館日:月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）年末年始
お問合せ先 0166-46-6277

A 牛朱別川橋 エリア

旭橋から緑橋へ抜けると、昭和レトロな風景がつづく牛朱別川河川敷が続きます。
6本の内4本の橋に彫刻が設置され、水音をBGMに橋越しにも彫刻の姿が堪能できます。
晴れた日には大雪山系が一望できる絶好のビュースポット。

たんさく モデルコース

CR：サイクリングロード

常磐公園 → 旭橋下CR → 牛朱別川CR → 緑橋 → 永隆橋 → 日之出橋 → 新成橋 → 牛朱別川CR戻り → 常磐公園

旭川駅→常磐公園（徒歩：約20分、自転車：約15分）

距離：約3.1㎞
徒歩：約1時間10分
自転車：約35分

29 人間像・感情 加藤 顕清
1959 ブロンズ 170×46×46
「私は人生について考えています。生きるとは何なのか、永遠のテーマです。この橋に一人でずっと、孤独ではありませんん。野鳥も来るし、月夜のお寺の鐘の音も趣がある。市立病院も見えるから皆の健康も祈ったり、結構忙しいんです」

30 女 笹戸 千津子
1981 ブロンズ 98×38×68
二人「お互いのファンのためにもボディケアをしてくれるサポート隊に感謝しながら若さを保っていきましょうねぇ」
女「私が見たいのは私の心のうち」
微風「…。座ってばかりいると内向きになるのかしら…。はっらっと楽しみましょうよ」
女「でも、私のアンニュイな感じや、頭から足先へのS字ラインがステキねってポーズをまねする人もいるのよ」
微風「私なんか、君がいるから背景の山が雄大に見えるって」

31 微風 笹戸 千津子
1993 ブロンズ 213×80×50
微風「まあ、夕焼けの旭橋がきれい。あなたから見える？」

32 裸婦立像 木内 克
1961 ブロンズ 180×101×52
立像「早いものよね、晴れた日は大雪山系をパノラマで眺め、その雄大さに背筋がピンとする」
裸婦「ねえ、だけど私たち何も聞いてないわよね。彫刻仲間は、背中とお尻しか知らないんだって噂してるわよ」
立像「ちょっと、それを言うなら〈座ったお尻〉の組み合せがセッチ（ステキ）だね」「ご評判よ」
裸婦「うふふ、私たちボリュームあって堂々としているねえとか言われてるけど、わりかし謙虚にやってるわよね」
二人「昭和魂、感じてほしいわね～」

33 裸婦 木内 克
1968 ブロンズ 89×39×37.5

34 隼の碑 山内 壮夫
1957 ブロンズ 83×120×43
「隼の碑」シリーズの1点で、一番小さく複雑な形をしている初期の作品。

35 風の中の母子像 山内 壮夫
1955 ブロンズ 152×42×30
子を抱き上げた母の姿を半具象的に表現している。同じ作品が療育園※の本立の中にもある。環境の違いで作品の見え方がどう変わるかを見比べるも良し。

野外彫刻の楽しみ方

★四季の中で
野外彫刻は、季節や天候、時の流れによって印象が大きく変わります。遠くから見た作品を、近くでも眺めてみよう。周囲の音や光、季節の匂いも感じながら。

★触ってみよう
展覧会では作品に触ることはできませんが野外彫刻は大丈夫。晴れた日は金属はあたたかく石はひんやりしています。素材の手触りや作品の大きさを体感しよう。

★やってみよう
・モデルや作者の気持ちになってポーズを真似してみよう。
・写真を撮ろう。どんなアングルがいいかな？
・会話してみよう。彫刻の呟きや会話を想像して物語を作ってみよう。

★調べてみよう
美術館や図書館で作家や作品の事を知ろう。全国各地に作品が点在しているよ。

i 旭川観光物産情報センター レンタサイクル
8:30～17:00（6月～9月）
9:00～17:00（その他の期間。4月下旬から10月末まで）
料金：1日800円～ 期間中無休
旭川観光物産情報センター（旭川駅内）tel. 0166-26-6665

ひっぱる